

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	3577500113		
法人名	社会福祉法人 佐波福祉会		
事業所名	グループホーム かじかの里		
所在地	山口市徳地八坂1330番地		
自己評価作成日	平成22年7月26日	評価結果市町受理日	平成22年12月27日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢で認知症の方の尊厳を保ちながら「急がない」「せかさない」「一緒にゆっくり」をスローガンとして、家庭的な雰囲気の中で、日々を明るく穏やかに安心した生活ができるように援助します。自分らしい生活の支援、また、規則や規定を設けず可能な限り自立した普通の生活を送ることにより、認知症緩和に努めるとともに、残存機能の維持に努めます。また、介護事業と共に、認知症緩和はもちろん、よりその人らしさを目指し、ぬくもりのある援助に励みたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員が勤務の一環として段階的に年20回程度外部研修に参加され、内部研修は年間計画を立てて実施されるなど職員を育てる取り組みが充実しており、ケアの質の向上に努めておられます。食事は三食とも事業所で調理され、地域からの差し入れの野菜や事業所で収穫した野菜等を使って、利用者職員で調理、盛り付け、片づけを行い食事を楽しんでおられます。ボランティアの方々の読み聞かせ、ゆる体操等で気分転換をされると共に、消防分団と一緒に避難訓練を実施したり、家族やボランティアの協力で地域の花火大会に車椅子の方も出かけるなど、地域と交流しておられます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働いている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝・夕の引継ぎ時、ミニカンファレンスにて理念の唱和を共有し、意欲的に取り組んでいる。	「あたが育んできた地域とのかかわりを大切にします」という独自の理念を作成し、事業所に掲示して、朝夕の引継ぎ、ミニカンファレンス時に地域密着型サービスの意義を理解し共有して、ゆったりと寄り添う日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加している。(お大師参り・足王様・サッカー場へ観戦など)	お大師様参り、足王様、花火大会等の地域の行事の参加やボランティア(ゆる体操、音楽療法、読み聞かせ)の訪問、支援ハウスでの馴染みの方との交流、散歩、買い物時の声かけや野菜の差し入れなど、日常的に交流している。周辺の5自治会に3ヶ月に1度法人の広報誌を回覧している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に1度の広報誌『とくち苑だより』で、地域の人々に役立つように取り組んでいる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	過去の改善策を把握して具体的に改善・実行している。(理念)	評価の意義について話し合い、全職員に配布し、記入後に会議を開催して意見交換をした後に管理者がまとめている。自己評価の必要性をケアの振り返りの機会とし、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を生かして常時改善している。	開催回数を年6回とし、家族会と合同開催時には利用者も参加している。地域包括支援センター長、民生委員、ボランティア、派出所巡査長等のメンバーで、理念の説明、利用状況報告、外部評価報告などの意見交換を行い、出された意見をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町との連携は、サービス向上に繋がるアドバイスを受けている。	地域包括支援センターとは日常的に情報交換をして相談できる関係にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者に対するやさしい言葉かけは職員全員で徹底し、お世話させて頂く心を忘れないよう喚起している。	マニュアルを作成し、全職員で研修を実施し、正しい理解のもとに拘束のないケアに取り組んでいる。玄関には日中鍵をかけておらず、見守り体制を工夫し、外出を察知した時には、一緒に出かけるように取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事実はない。常日頃から職員会議や処遇会議を通してやさしい言葉使いやいたわりの気持ちで介護支援を行うよう喚起している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修により受講した項目について複伝し、必要性を関係者と話し合い、今後役立つように研鑽している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がゆっくり時間をかけて親切丁寧に行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置すると共に、運営推進会議の開催や市の介護相談員の訪問を受け入れるなどご利用者の意見の反映に努めている。	相談、受付体制(外部機関、第三者委員の明示)、苦情処理手続きについては入居時に説明すると共に、運営推進会議、家族会、面会時等で意見や要望を聞き、運営に反映させるように努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営理念(介護理念)に基づいての介護の五信条を職員室に掲示。月例会議での意見を求めている。	毎月の職員会議や毎年の運営に関しての予算要求時に意見を取り上げ、支援内容を変更するなど、意見を反映させるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月例会議での意見の収集、随時管理者通じて把握している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修(目標管理)等により育成できている。復命書で把握できている。	段階的に全職員を勤務の一環として外部研修(年20回程度)に参加すると共に、職員会議時に復命をしている。内部研修は年間計画を作成し実施すると共に、働きながらのトレーニングをしていくことを進めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部・内部研修に取り組み、質の向上に心がけている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅・及び滞在施設を訪問し、情報入手・アセスメントしている。元ケアマネージャーからの情報も入手している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問・もしくは家族に来院していただき相談に応じている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所待ちでの家族の介護の負担の軽減のため、他の施設のサービスの説明もしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「あなたの思いと願いをきかせていただきます」に基づき、行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行えている。職員の考えを押し進めず、本人家族と相談し一緒にケアを考えている。本人も家族も笑顔で過ごせるような関係を築く。		
21	(10)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所への面会・外出・外泊を行っている。	馴染みの神社の祭り、美容院、墓参りに出向くと共に、自宅への外泊(正月、ゴールデンウィーク、盆等)、知人、友人の来訪と馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行っている。より良い関係が保てるよう常日頃から配慮している。		
23		○ 関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人情報の保護を行いながらフォローしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者が、利用者一人ひとりの意向の把握に努めている。	入浴、食事など日々のかかわりの中で行動や会話などから把握に努め、伝達簿に記録し職員が共有し検討を行っている。センター方式のシートの活用をしている。	
25		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人生活史シートにて随時聴き取りを行い記入し、全職員が共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	オリジナルのサービスケース記録を作成し、その人に合ったサービスを提供し、個人個人で把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の生の声を介護計画に活かしている。	担当職員を中心に一人ひとりの思いや意向、生活歴、家族の要望を大切にしながら介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア会議で評価・考察をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在該当なし。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の各ボランティア、民生委員に協力していただいている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し話し合っている。	かかりつけ医、協力医と連携を取り、家族・利用者と相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護職との連携も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報収集に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で重度化した場合の対応を説明している。	入居時に重度化した場合の対応(併設の施設の入所)について説明している。介護度3の時点から家族等関係者と検討して、安心して移設できるように支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	個別ではケアプランを基に行い各マニュアルにそって事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練を内部研修で行っている。	事故・ヒヤリはと報告書に記録し、検討して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・応急手当、初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は行っている。災害マニュアルで把握している。	火災、地震、水害のマニュアルを作成し、昼夜の避難訓練を年2回実施している。地元の消防団も訓練に参加し、協力関係の充実に努めている。自治会への働きかけも始めている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃からいたわりのある言葉かけを行うようあらゆる機会を通じて喚起している。	マニュアルを作成し勉強会を行い、一人ひとりの誇りを大切にしている。職員はプライバシーを損ねないようさりげない言葉かけの対応に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションなどは選択の幅を拡げ選んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護理念の「思いと願いを聞かせていただきます」のように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院や散髪ボランティアで支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作ることが好き、味付けが好き、盛り付けが上手、片付けが得意な利用者さん達と職員が一緒に行っている。	利用者のそれぞれの力を活かしながら、三食とも事業所で調理している。収穫した野菜、差し入れの野菜、職員持参の野菜などがある日は献立を変更して好みの物を作って食べるなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂食表を作って記入している。水分量は各自のコップで把握している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に声掛けしている。その後個別に対応している。義歯は週1回ボロデントで消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立が損なわれないような対応を行っている。	排泄チェック表を作成し、パターンを把握して一人ひとりに応じた声かけやトイレ誘導をして、自立へ向けた支援に取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の献立に繊維質のある食材を取り入れている。体を動かす事も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2～3回行っている。それ以外にも本人の希望をとり入れ入浴していただいている。	希望があれば毎日の入浴も可能である。時間帯は14時から17時でゆっくりと入浴したり、2人で入浴したりと個々に応じた入浴支援をすると共に、シャワー浴、清拭、足浴等の対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意見を取り入れて照明を調整している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のファイルを設置。それにより把握している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。役割を促し、それにより生きがいを感じてもらっている。	新聞受け作り、貼り絵、アンパンマン巻き寿司作り、習字、ことわざ遊び、将棋、トランプ、ボランティアによる読み聞かせ、音楽療法、ゆる体操など、一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2ヶ月に1回の外出がある。	四季の花見(桜、つつじ、睡蓮、紫陽花、紅葉等)、蛍見物、花火大会、温泉入浴、神社参拝、買い物、散歩など家族やボランティアの協力を得ながら、手押し車、車椅子の利用者も希望に沿って外出できるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを家族より預りおやつ代などに当てている。出納簿を設置している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜間を除く日中に自由に行えるよう職員が支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内外ともに季節感のある空間作りを行っている。	玄関、食堂、廊下は明るく、大きな窓からは山々や田の稲の育ち具合などが眺められるなど、季節のうつろいが感じられる。昼の間やウッドデッキなど利用者の居場所があり、混乱を招くような刺激がないように配慮され、ゆったりとした時間の中で居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者のテーブルなど居場所作りには特に配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家より使い慣れた家具や小物を持ち込んでいただいている。	タンス、椅子、テーブルなど使い慣れた家具等やテレビ、人形、写真、手作り作品、絵画、花を飾るなど、使い慣れた物、好みの物等を活かして本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施錠を行わず、立ち入り禁止の部屋には入り口に張り紙をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム かじかの里

作成日：平成 22年12月10日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	新人職員が自己に対する応急対応や初期対応の方法を身につけていない。	新人職員への研修を実施し実践力を身につける。	○ 定例会議(月初め)と定例会議(月末)に全職員が内部研修を行う。 ○ 外部より講師を招き指導を受ける。 ○ 外部研修の復伝により自主研修する。	6ヶ月
2	27	密なかかわりあいができているのにもかかわらず問題点をみつけることが難しい。	アセスメントのありかたを見直し生の声をケアプランに反映する。	○ 定例会議(ケア会議)にて見直しを検討する。 ○ 各担当が見直しを行う。 ○ 見直しによりケアプランに反映させる。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。